1. 施設の現状調査

斎場の施設建物・設備の現状、運営状況について現状調査を行う。また、現在の火葬及び斎場の利用方法など現斎場を取り巻く状況を調査し分析を行う。現状調査では斎場霊園管理課職員ヒアリングを実施することとする。

1.1. 施設概要

表 1-1 市川市斎場の施設概要

所 在 地	市川市大野町 4-							
敷 地 面 積		都市計画決定部分)約 19,770 ㎡(現駐車場を含む)						
地 域 地 区		、都市計画施設 (火葬場)						
建蔽率・容積率	50% 100%							
開設年月日	昭和55年(198							
構造・規模		·卜造平 2 階建 延床面積 4,217.53 m²						
施設概要		すべて特大棺受入可能)						
) 1 室 炉前室 (ホール) 1 室						
		収骨室 2室						
		洋室3室、和洋室2室)						
	_	納骨室 1 室 冷蔵室 1 室(3 体)						
	売店							
	火葬料	市内居住者						
	(非課税)	大人(15 歳以上)6,750 円 小人(15 歳未満)4,720 円						
		市外居住者						
		大人(15 歳以上)50,000 円 小人(15 歳未満)34,000 円						
	式場							
	第1式場	200 席(500~1,000 名程度可能) 9,470 円/1 h						
	第2式場	50 席(100~200 名程度可能) 4,280 円/1 h						
	第3式場	100 席(200~500 名程度可能) 6,390 円/1 h						
	職員用事務室							
	駐車場(乗用車	134 台(うちマイクロバス 10 台))						
業務内容	火葬業務、施設	使用許可等業務、遺体搬送業務、祭壇等設置業務						
	維持管理業務、	運営業務、警備業務 など						
業務時間	午前8時30分	·~午後 5 時						
休 業 日		3日、友引の日(式場の貸し出し業務のみ実施)						
アクセス	= : : : : :	、幡駅」北口または、JR 武蔵野線「市川大野駅」から市営						
	霊園経由市川営	業所行き市営霊園下車、動植物園行き(土・日曜日の昼の						
		場下車または、JR総武線「下総中山駅」北口から市営霊園						
	行き終点下車							

1.2. 敷地の現状

敷地は、市川市霊園、総武霊園、市道に囲まれた敷地となっている。また、市道との間の水路、駐車場部分は、火葬場として都市計画で定められた区域に指定されていない。



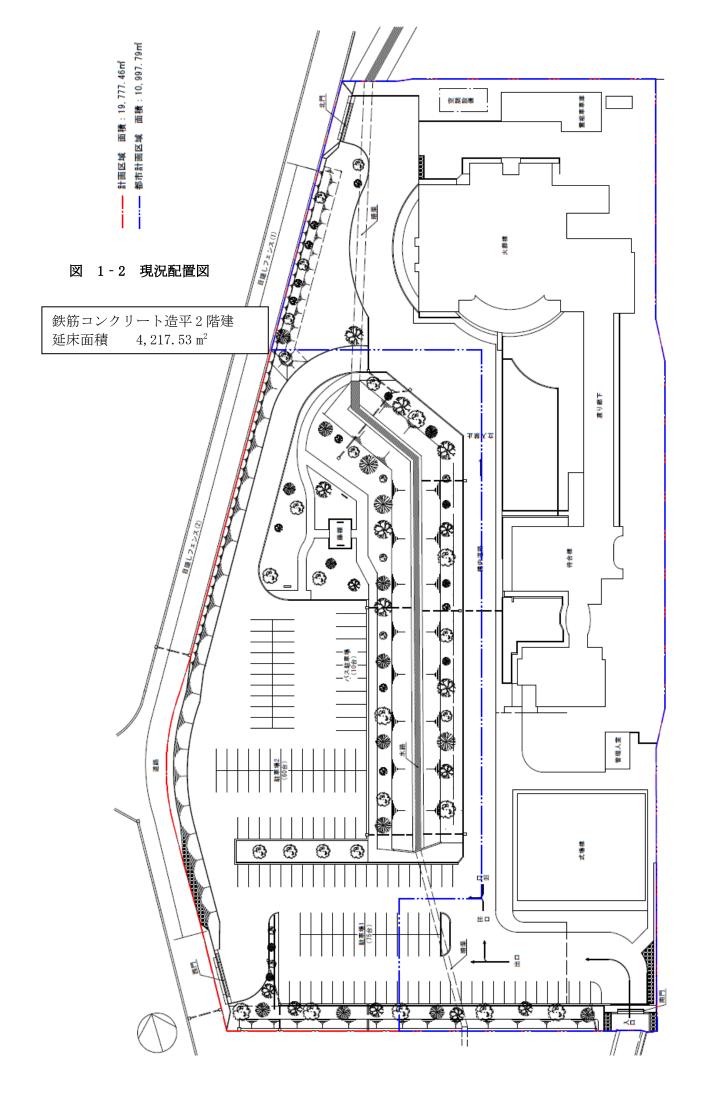
平成25年度の斎場2施設の建物状況は以下のとおりである。

表 1-2 建物の状況

	基本	情報	老朽化	環境対応		維持管理(H. 25 年度)					
施設		延床		一次エネルギー	- 次エネルキ゛ 次エネルキ゛		維持管理費(千円) 床面積当たり(月			円/m²)	
旭畝	建築	面積	築年数		消費原単位	燃料•	施設管理	施設	燃料•	施設管理	施設
1 4	年度	(m^2)	(年)	何負 里 (G.j/年)	何負原単位 (Gj/m²·年)	光熱水費	に係る	修繕料	光熱水費	に係る	修繕料
				(67/ 平)	(0J/III·+)		委託料			委託料	
斎垣	場 昭和 54	4, 217. 53	35	12, 326	2, 923	29, 629	24, 036	10, 200	7, 025	5, 699	2, 418

(老朽化凡例〉	〈環	境対応凡例〉
	築 20 年以上 30 年未満		平均値を上回る
	築 30 年以上		

市川市公共施設白書より掲載



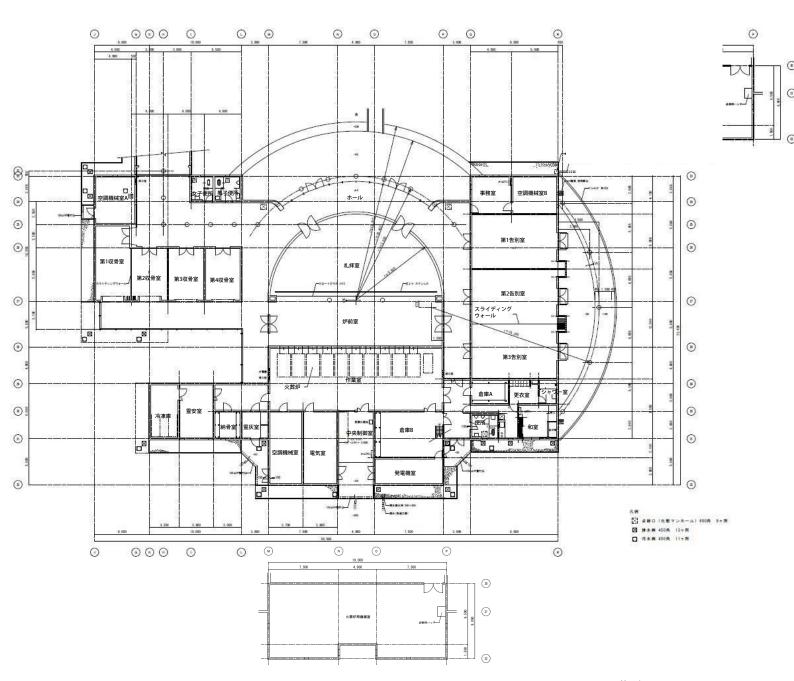
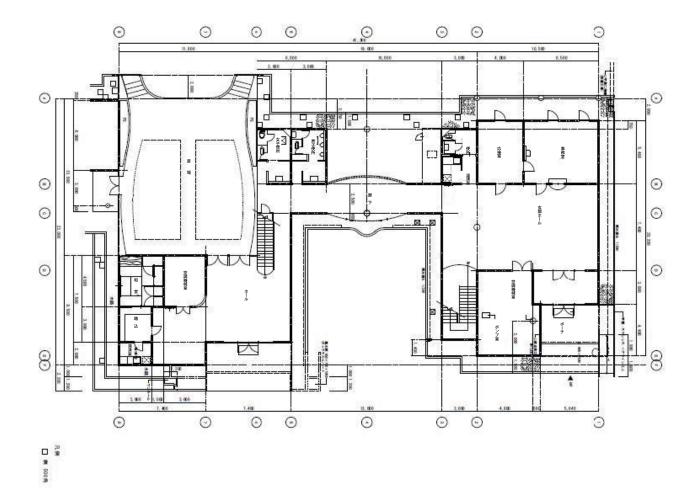


図 1-3 火葬棟現況図



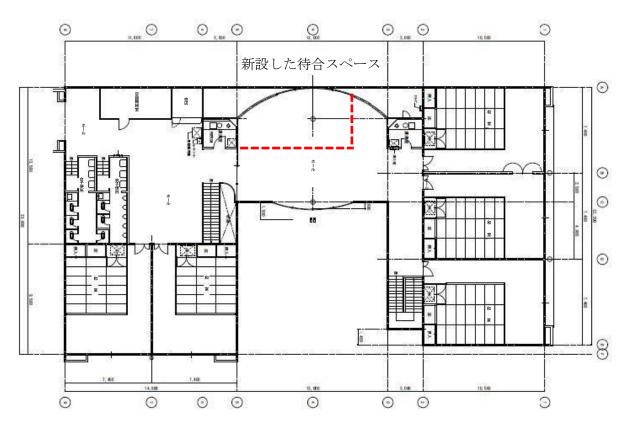


図 1-4 待合棟現況図

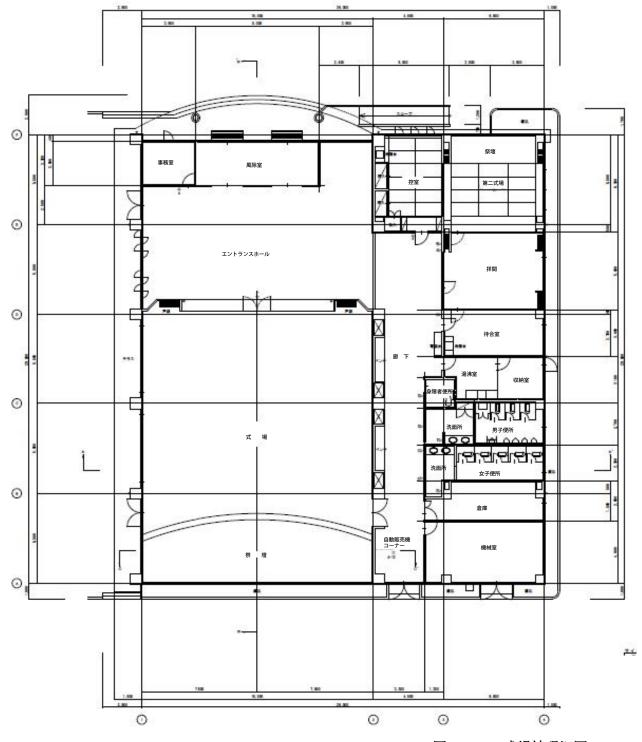
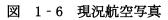


図 1-5 式場棟現況図









1.3. 市川市斎場の利用状況

現在の市川市斎場の主な利用状況等は以下のとおりとなっている。

1.3.1. 火葬の現状

火葬料 (非課税) は以下のとおりである。

表 1-3 市川市斎場の火葬料金

区分	大人(15 歳以上)	小人(15 歳未満)
市内居住者	6,750 円	4,720 円
市外居住者	50,000 円	34,000 円

休業日は以下のとおりである。

表 1-4 市川市斎場の休業日

	** = = -1:/ 1:1: NH 350 : 11 S141 :
区分	休業日
火葬場	1月1日~1月3日及び友引の日
式 場	1月1日~1月3日(友引の日は、式場の貸出業務のみ実施)

近年の火葬件数は以下のとおりとなっている。

表 1-5 市川市斎場の火葬件数

年度	火	葬件数 ()(用数		市民死	はい変	管外率	稼働		
十段	総数	大人	小人	胎児	その他	日平均	亡者数	77、少千	E 7 P	日数
2009 (H21)	2,961	2,803	9	88	61	9.9	2,943	_	_	300
2010 (H22)	3,013	2,858	7	76	72	10.0	3,190	_	_	301
2011 (H23)	3,199	3,076	16	38	69	10.6	3,196	_	_	303
2012 (H24)	2,957	2,845	13	43	56	9.9	3,215	_	_	300
2013 (H25)	3,039	2,923	13	39	64	10.0	3,231	_	_	303
2014 (H26)	3,283 (256)	3,160 (191)	7 (0)	41 (1)	75 (64)	10.9	3,365	88.4	6.0	301
2015 (H27)	3,453 (342)	3,307 (276)	14 (2)	61 (4)	71 (60)	11.4	3,515	86.6	8.4	303
2016 (H28)	3,459 (311)	3,325 (243)	11 (1)	51 (5)	72 (62)	11.5	3,515	88.1	7.2	301
2017 (H29)	3,307 (179)	3,167 (113)	9 (0)	62 (6)	69 (60)	11.0	3,530	86.8	3.6	302
2018 (H30)	3,326 (143)	3,193 (85)	8 (0)	54 (2)	71 (56)	11.0	3,657	85.2	2.7	302

※:その他:改葬・四肢等(市提供データによる)

・持込率:市内における死亡者のうち、市川市斎場に持ち込まれる割合

・管外率:年間総火葬件数のうち、市外から持ち込まれる件数の割合

・持込率、管外率は、胎児、その他を除いた件数で算出



図 1-7 火葬件数の推移

市川市斎場の火葬件数は、年間約3,000件/年で推移していたが、近年増加傾向を示しており、現状における市川市斎場の最大火葬件数の4,500件(15件/日)には、まだ余裕があるが、市民の死亡者数は、すでに3,600名を超えており、タイムテーブルの一部見直しなど、現状の業務の見直しを行わないと、市民が斎場を利用できないこととなる。

持込率と管外率の5年間の平均値は、それぞれ、87.0%、5.6%となっている。

火葬炉のタイムテーブルは、以下のとおりとなっており、炉の性質上、火葬の予約は前後の時間帯を含めて5件以内としており、1日の火葬件数は15件となっている。火葬炉の大きさについては、すべての火葬炉において、大型の棺($L197 \times W60 \times H43$)も受け入れ可能となっている。

1日のタイムテーブル例を以下に示す。火葬1件の所要時間は、概ね1時間30分となっている。(入炉から冷却し、収骨の開始までの待合室利用時間)

表 1-6 現在の火葬場の予約スケジュール

NO.	1	2	3	4	5	6
火葬炉予約時刻	9:30~	10:30~	11:30~	12:30~	13:30~	14:30~

表 1-7 現在の火葬場のタイムテーブル

		9:30	10:30	11:30	12:30	13:30	14:30
火葬炉	(あ) (い) (う) (え) (お) (か) (き) (く) (け)	2 炉	3 炉	2 炉	3 炉	2 炉	3 炉
待合室	5室	2室	5 室	5 室	5 室	5 室	5 室

待合室については、50名程度収容可能な部屋(和洋室 畳 21 畳)が5室あり、無料で提供されている。待合室における飲食提供については、売店等で調達可能となっている。

また、利用者の利便性、快適性向上のため、待合ホールの一部に壁を設置し、待合スペースを増設したところである。

1.3.2. 式場の利用状況

式場については、現在、以下のとおり規模の異なる式場が3室ある。

表 1-8 現在の式場の概要

	主用途	規模	市内居住者使用料
第1式場	大規模葬儀	200 席(500~1,000 名程度可能)	9,470 円/時間
第2式場	通夜、告別式	50 席(100~200 名程度可能)	4,280 円/時間
第3式場	通夜、告別式	100 席(200~500 名程度可能)	6,390 円/時間

各式場等の利用状況は、以下のとおりとなっている。

表 1-9 現在の各式場の利用状況

及 1 0 为社公司人的人的										
	通夜				式場					形態
年度	告別式	法事		第1	第2	第3	塩浜	第3告別室	市扱い 葬儀	直葬
2009 (H21)	440	2		19	184	195	44	33	232	_
2010 (H22)	453	3		13	197	200	46	44	283	89
2011 (H23)	416	3		13	186	187	33	53	261	159
2012 (H24)	396	3		10	185	183	11	34	214	196
2013 (H25)	361	4		10	172	162	21	58	219	231
2014 (H26)	375	0		8	180	182	5	54	207	297
2015 (H27)	372	0		8	199	165		33	171	334
2016 (H28)	362	1		11	201	151		34	143	371
2017 (H29)	371	1		10	207	155		32	115	401
2018 (H30)	375	0		7	227	141		26	111	469

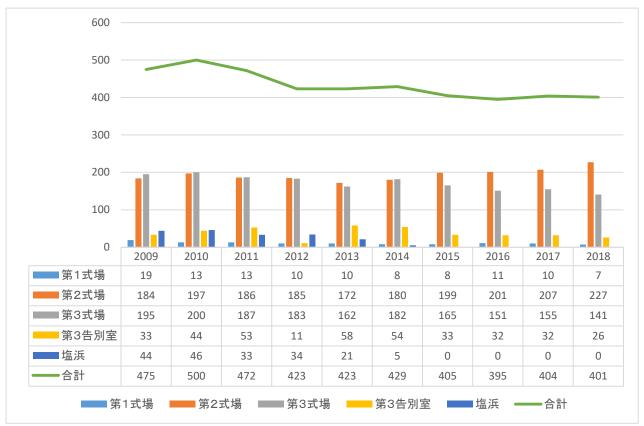


図 1-8 式場の利用状況

式場の利用状況に関しては、全体的に漸減している傾向がみられる。特に、大規模葬儀を行う第1式場(200 席($500\sim1,000$ 名程度可能))の利用数が少ないことが顕著である。しかしながら、年間7回から19回となっており、近年では月に一度程度とはいえ、まったく需要がないとも言えない状況である。また、第1式場と第2式場の中間の規模の第3式場(100 席($200\sim500$ 名程度可能))の利用状況も25%以上減少している。

他方、第2式場(50席(100~200名程度可能))の利用数が20%以上増加している。

現段階では、小規模な家族葬など需要が増加している傾向は顕著であるが、他方、頻度は少ないものの大規模、中規模の葬儀の需要も、市川市斎場が担っている現状も見受けられる。

1.3.3. 市扱い葬儀、直葬の状況

市川市斎場においては、市扱い葬儀として、納棺、霊柩車による搬送、式場の祭壇設営等を提供している。

市扱い葬儀では、葬祭業者が関与せず、市が遺体の引取り、搬送、式場設営も行っており、低廉な費用で火葬まで実施できるものとなっている。以下に市扱い葬儀、直葬数の推移を示す。

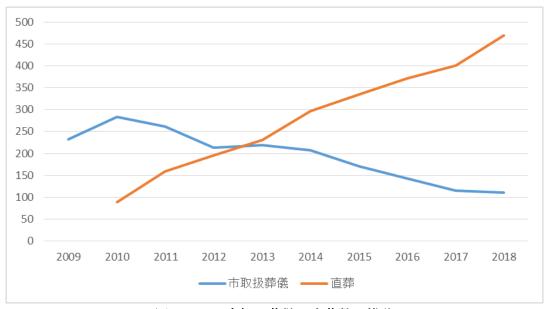


図 1-9 市扱い葬儀、直葬数の推移

市扱い葬儀については、10年間で約 1/2 (232件(2009)→111件(2018)) と利用者が減少している。霊安室については、市扱い葬儀の場合に使用するのみのため、現在利用は少なくなっている。また、市の職員が、霊柩車の運転や祭壇の設営、片付け等を行っており、火葬業務に加え大きな労力になっている。

他方、近年では直葬(病院等から遺体安置所、火葬場へと搬送し、特に葬儀は行わず少人数で見送る形式)が増加傾向にある。直葬は葬祭事業者を利用しても、短時間のうちに比較的低廉な費用で火葬まで実施可能であること等が、その理由と考えられる。

1.3.4. 利便施設の状況

売店に関しては、行政財産使用許可により斎場対策協議会売店部が、11.96 m²を使用料及び電気料にて使用している。

(1) 火葬炉の現状

火葬炉概要

表 1-10 火葬炉概要

竣工	1980年
炉数	人体炉 10 基
系 統	2 炉 1 系統
燃料	都市ガス
排気設備	空気冷却、集塵機 (パイロスクリーン)

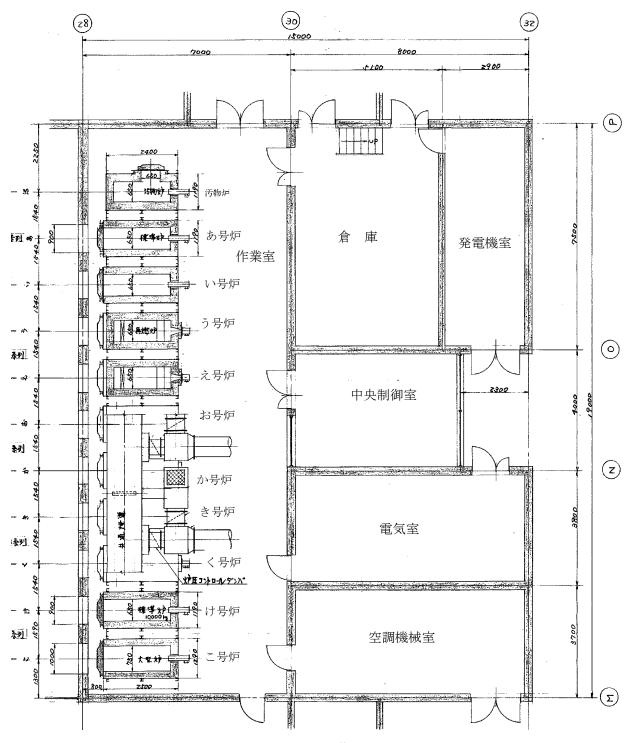


図 1-10 現況火葬炉平面図

(2) 火葬炉の現状

令和元年度の火葬炉保守点検結果によると、多くの補修等が必要と指摘されている。

(3) 現在の火葬炉の環境性能

3 系統及び4 系統について、平成15 年度に排出ガスについて調査を実施している。調査結果は以下のとおりとなっている。

表 1-11 排出ガスの調査結果

次 I II 好田/// / - / - / - / - / - / - / - / - / -										
項目	単位	3	系統	4	系統	目標値	調査方法			
块 口	平仏	実測 12%換算値		実測 12%換算値		日保旭	则重力伝			
ダイオキシン類	ng/m³N	2.3	11	2.3	11		JIS K 0311 (1999)			
ダイオイング類	ng-TEQ/m³ N	0.23		0.22		5	既設 5/新設 1			
ダスト濃度	g/m³N	0.015	0.068	0.015	0.064	0.01	JIS Z 8808(1995)			
硫黄酸化物濃度	ppm	4.1	19	3.4	13	30	JIS K 0103 (1999)			
窒素酸化物濃度	ppm	10	36	31	140	250	JIS K 0104 (2000)			
塩化水素濃度	ppm	7.0	32	6.3	24	50	JIS K 0107 (2002)			
L 温化小糸低皮	mg/m³N	11	52	10	39					
臭気指数	_	30		29			環境省告示 63 号			
臭気濃度	_	1,000	_	790		500	環境省告示 63 号			
一酸化炭素濃度	ppm	< 2	< 9	< 2	< 10	30	JIS K 0098 (1998)			
酸素濃度	%	19		19.1			JIS K 0301 (1998)			

[※]目標値については、「火葬場の建設・維持管理マニュアル (平成30年8月)」による値

調査結果では、ダイオキシン類は、基準値を下回っている。ただし、ダスト及び臭気は、目標値を 超過している。本目標値は、近年整備する炉のためのものであり、現状の古い炉に必ず適用するべき ものでもない。

火葬炉については、法的には大気汚染防止法等により決められた規制基準はない。廃棄物焼却炉(2t/h 未満)の排出基準を適用する場合もあり、その場合の基準値 $0.25~g/m^3~N$ (既設炉)については、それ以下になっている。

ダスト及び臭気については、炉が古く制御システムも現在の最新の炉に比べ自動化されていない等による不完全燃焼が起きている可能性がある。

本調査は、平成 15 年度に実施されているものであり、火葬炉の状況を把握するためには、本来は 毎年実施することが望ましい。